

## この世の困難を解決する器

2006. 9. 12 (火)  
ベック兄メッセージ (メモ)

### 引用聖句

#### 使徒の働き 26章4節、5節

では申し述べますが、私が最初から私の国民の中で、またエルサレムにおいて過ごした若い時からの生活ぶりは、すべてのユダヤ人の知っているところです。彼らは以前から私を知っていますので、証言するつもりならできるところですが、私は、私たちの宗教の最も厳格な派に従って、パリサイ人として生活してまいりました。

#### 使徒の働き 26章9節から19節

以前は、私自身も、ナザレ人イエスの名に強硬に敵対すべきだと考えていました。そして、それをエルサレムで実行しました。祭司長たちから権限を授けられた私は、多くの聖徒たちを牢に入れ、彼らが殺されるときには、それに賛成の票を投じました。また、すべての会堂で、しばしば彼らを罰しては、強いて御名をけがすことばを言わせようとし、彼らに対する激しい怒りに燃えて、ついには国外の町々にまで彼らを追跡して行きました。このようにして、私は祭司長たちから権限と委任を受けて、ダマスコへ出かけて行きますと、その途中、正午ごろ、王よ、私は天から光を見ました。それは太陽よりも明るく輝いて、私と同行者たちとの回りを照らしたのです。私たちはみな地に倒れましたが、そのとき声があって、ヘブル語で私にこう言うのが聞こえました。『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。』私が『主よ。あなたはどなたですか。』と言いますと、主がこう言われました。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。起き上がって、自分の足で立ちなさい。わたしがあなたに現われたのは、あなたが見たこと、また、これから後わたしがあなたに現われて示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人に任命するためである。わたしは、この民と異邦人の中からあなたを救い出し、彼らのところに遣わす。それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中にあつて御国を受け継がせるためである。』こういうわけで、アグリッパ王よ、私は、この天からの啓示にそむかず、

#### ピリピ人への手紙 3章1節から8節

最後に、私の兄弟たち。主にあつて喜びなさい。前と同じことを書きますが、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなることです。どうか犬に気をつけてください。悪い働き人に気をつけてください。肉体だけの割礼の者に気をつけてください。神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むと

ころがあると思うなら、私は、それ以上です。私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きつすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。それは、私には、キリストを得、また、

#### コリント人への手紙・第二 4章1節から7節

こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから、勇気を失うことなく、恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々のばあいに、おおいが掛かっているのです。そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。

先週始まったテーマ『この世の困難に対する主の答え』について、もう少し考えたいと思います。

先週話しましたように、この世の人々の一番問題とするのは「いのち」であり、また、全人類の飢え渴きはやはり「いのち」であるということ、すでに一緒に考えてまいりました。人は、現実や力や満たしが欲しいのです。

この困難な問題や、また憧れに対する主の答えは、「主イエス様のよみがえり」であるということも、先週共に考えてまいりました。

よみがえりとはいったいどういうことなのでしょう。

よみがえりは、「十字架」による新しい立場、新しい力、新しい知識、また、新しい満たしを意味します。

そして私たちは、前回次の大切な質問を設けたのです。すなわち、

いかにして、私たちの生活を通して、このよみがえりの力が現実的なものとなり、この世の困難を解決することができるか、という設問でした。

その答えは次のようでした。

- ・十字架の意味を悟ることによって。
- ・よみがえりの力を現わすことによって。
- ・また、主イエス様を示されることによって。

これらのことによつてのみ、これが可能なことなのですと。

今日も、『この世の困難を解決する器』というテーマを、考え続けたいと思います。

この世の困難を解決するためには、主によつて備えられた器が必要です。確かに、多くのキリスト者は、この問題について真剣に考えて、そのうえ結論として、「この世の困難を解決するために、パウロのような備えられた器が必要だ」と言います。しかしこれは大間違いです。なぜなら、もし今日、ほかのパウロまたパウロ自身が来たとしても、こんにちのキリスト教という宗教はパウロを決して受け入れないでしょう。パウロは、こんにちの組織されたキリスト教を攻撃するでしょう。現代のキリスト教は、昔のユダヤ教に非常に似ています。似るようになってしまったのです。そしてユダヤ教は、イエス様を十字架につけたのです。こんにちの組織されたキリスト教も、同じようにパウロのような器を十字架につけるに違いありません。もしそうであるなら、これは恐ろしいことです。

けれど、考えるべきことは、パウロは、「イエス様のからだなる教会の代表者、からだなる教会の象徴、からだなる教会の現われ」でした。そして今の時代の一番大切なことは、やはり「イエス様のからだなる教会」です。ですからまことの教会は、主イエス様であり、また、イエス様を信じる者のうちに住んでおられるイエス様です。

からだなる教会である霊の住まい、霊である主の住まいとは、イエス様ご自身であり、また、イエス様に結び付いている兄弟姉妹の一致です。けれども、パウロの生活によって明らかになった霊的な真理は、それぞれの時代に、おのおのの教会のうちで現実とならなければならぬということが主のみこころなのです。

パウロの生活の霊的な特徴が、主のからだなる教会の特徴とならなければなりません。ですから必要なことは、ほかのパウロではなくて、「パウロによつて啓示された教会」です。

もし、私たちが少しだけパウロの生活を観察すると、この人は主から選ばれた器であることが分かります。パウロが回心したとき、主は、「あの人は、…わたしの選びの器です。（使徒の働き9：15）」と言われました。

パウロが主から選ばれた器であったように、それぞれの教会が、主に用いられる器とならなければなりません。もちろん教会の模範は「イエス様」であり、そして主のからだなる教会も、イエス様に似たものとならなければなりません。けれども、イエス様が、特にパウロのうちに、またパウロを通して啓示なさったということは明らかです。

イエス様はこの地上におられた時、教会の秘密についてあまり語られなかったのです。（なぜなら五旬節の前には、だれもこの秘密が分からなかったでしょうから。）けれども、高く引き上げられたイエス様は、選ばれた器であるパウロを通して、まことの教会の秘密についてはっきりとお語りになったのです。

まことの教会は決してパウロの教会ではなく、イエス様の教会です。ところがイエス様は、パウロを通して、まことの教会の秘密についてお語りになりました。イエス様から示された啓示は、器の生活の中で生きる現実とならなければなりません。そうしなければ、啓示はあまり役に立ちません。しかしパウロの生活はこの啓示によって、全く新しくされました。言えることは、パウロのうちに教会の形ができたということです。ですから、私たちにとって、この主から選ばれた器の生活は非常に大切です。

そこで私たちは、このパウロの生活を観察してみたいと思います。そして、いつも一つのことを覚えましょう。すなわち、パウロの生活の霊的な際立っている特徴は、教会の際立っている特徴とならなければならないのです。

五つの点について、触れたいと思います。

- 一番目、古い器は廃棄された。
- 二番目、全く新しい器が必要である。
- 三番目、主によって捕えられる。
- 四番目、自由にされる。
- 五番目、土の器となる。

1. まず古い器が廃棄されたことについて、考えたいと思います。

一つのことを明らかでしょう。すなわち、ユダヤ教は、パウロの生活によって廃棄されました。今、司会の兄弟がお読みになりました個所を見るとはっきり分かります。ご存知のように、主なる神は、混沌の中からご自身による創造により、一つの国民、すなわちイスラエルを取り出されました。そして、イスラエルについて主は何と言われたかと言いますと、「イスラエルは、わたしの栄光である。喜びをもって、誇りをもって、イスラエルをわたしの栄光とする」と言われたのです。何というすばらしいことばでしょう。「イスラエルをわたしの栄光とする」。

ソロモン王の最初はそうでした。イスラエルは主なる神の栄光でした。イスラエルの民は、主の民として、力、能力、ダイナマイトのような信仰をもっていました。全部失われてしまい、混乱と罪だけが残ったのです。もちろんイスラエルの民は、礼拝やいろいろな儀式を守っていました。けれど最初の生き生きとした信仰はなくなり、その代わりに、死んだ、冷たい、力のない、習慣的な信仰がやって来ました。

パウロが生きていた時代のユダヤ教の場合はそうだったのです。しかし主は、イスラエルの民によって、ご自分の栄光を現わすことができなくなりました。ですから、主はパウロの生活を通して、ユダヤ教を排斥なさいました。二つの聖句を読むと分かります。

一つはエレミヤ記の18章。よく知られている個所です。

エレミヤ記 18章3節から4節

私が陶器師の家に行くと、ちょうど、彼はろくろで仕事をしているところだった。陶器師は、粘土で制作中の器を自分の手でこわし、再びそれを陶器師自身の気

に入ったほかの器に作り替えた。

#### 6 節から 10 節

「イスラエルの家よ。この陶器師のように、わたしがあなたがたにすることができないだろうか。— 主の御告げ。— 一見よ。粘土が陶器師の手の中にあるように、イスラエルの家よ、あなたがたも、わたしの手の中にある。わたしが、一つの国、一つの王国について、引き抜き、引き倒し、滅ぼすと語ったその時、もし、わたしがわざわざを予告したその民が、悔い改めるなら、わたしは、下そうと思っていたわざわざを思い直す。わたしが、一つの国、一つの王国について、建て直し、植えると語ったその時、もし、それがわたしの声に聞き従わず、わたしの目の前に悪を行なうなら、わたしは、それに与えると言ったしあわせを思い直す。

もう一箇所。内容的には同じですが、ローマ書の 9 章。

#### ローマ人への手紙 9 章 21 節から 25 節

陶器を作る者は、同じ土のかたまりから、尊いことに用いる器でも、また、つまらないことに用いる器でも作る権利を持っていないのでしょうか。ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださったとしたら、どうでしょうか。それも、神が栄光のためにあらかじめ用意しておられたあわれみの器に対して、その豊かな栄光を知らせてくださるためになのです。神は、このあわれみの器として、私たちが、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召してくださったのです。それは、ホセアの手紙でも言っておられるとおりです。「わたしは、わが民でない者をわが民と呼び、愛さなかった者を愛する者と呼ぶ。」

イスラエルの民は、今話しましたように、とんでもない方向にいつてしまったのです。

主はご自分の目的を達するために、結局ほかの器を必要とされました。ですから、古い器、すなわちユダヤ教（イスラエルの民）は廃棄されたのです。この新しい器は、パウロに啓示された、「イエス様のからだなる教会」です。

パウロは、ユダヤ教の指導者たちに対して、クリスチャンたちに大いに警告しました。ローマ書、ガラテヤ書、コリント人への手紙、またヘブル書を読むとはっきり分かります。

ユダヤ教の指導者たちはいつも、自分たちこそ神から選ばれた民であり、自分たちだけが主なる神の器であるなどと宣言し、自分が主なる神から廃棄されたことは認めようとしなかったのです。けれど、世の困難を解決する器は、罪と、形式的な信仰にまみれたイスラエルの民ではなく、パウロに啓示された、「主イエス様のからだなる教会」です。

イスラエルの民は失敗しましたから、主は新しい器を必要とされました。イスラエルが主なる神の栄光であった時、主に敵対している国の間で、イスラエルは霊的な力を持っていました。けれどこの霊的な力が次第に無くなってしまったのです。残っているものは、

組織された宗教、習慣を守る組織に過ぎなかったのです。人間によって組織された宗教、また、習慣と迷信によって目くらにされた者は、すでに主の器ではありません。

このことを考えると、まことの教会の一番大事な使命は、霊的な力を持つこと。また、主の目的を達する器となることです。イエス様のからだなる教会の代表者であるパウロの生活を見ると、これがよく分かるのです。もし人間が主の力だけに拠り頼まないなら、知らないうちに一つの組織になり、主の器として用いられなくなるのです。

## 2. 全く新しい器が必要になってしまったのです。

パウロは自分の宗教的な生活を捨てなければなりませんでした。彼は一生懸命になって、いわゆる宗教的なものを全部捨てなければなりませんでした。パウロは、徹頭徹尾、新しい立場を取らなければなりませんでした。以前には全然知らなかった新しい立場に立たなければなりませんでした。これは、過去に対する終わりを意味していました。全く新しい歴史が始まったのです。回心以前の生活は終わってしまいました。パウロは回心を経験したあとでアラビヤへ隠遁した、と聖書は記しています。

それからのちのパウロの生活は、全く違ったものでした。古いものは全部過ぎ去ったのです。パウロの書いた手紙を読むと分かります。彼はイエス様を知らなかった時の生活と回心したのちの生活との間には関係が全く無くなったのです。徹頭徹尾新しい生活でした。

繰り返して言いますが、パウロの生活の霊的な特徴が、まことの教会の特徴とならなければならぬのです。なぜなら、パウロによってまことの教会の秘密が明らかになり、パウロはまことの教会の代表者だったからです。ですから、イエス様のからだなる教会は、全く新しい創造です。教会は古い生活との関係を全部断ち切られました。すなわち、イエス様に属する者はどのような者であるかと言いますと、古い生活と新しい生活との関係を少しも持っていないということです。新しく生まれた者です。古い生活が終わり、新しい歴史が始まるわけです。

パウロは、コリント第二の手紙、よく読む個所なのですが、5章17節に次のように書いたのです。

コリント人への手紙・第二 5章17節

**だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です、古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。**

「その人」というのは少し間違っただけで訳されています。下欄に、「そこには新しい創造があります」と書いています。「新しく造られた者」とは、信じる者の中に住んでおられるイエス様です。結果として、「古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」。

これを経験した者の集まりは、「主イエス様のからだなる教会」です。古いものは過ぎ去り、罪にまみれた古い生活はダメだということが分かるのです。けれど、多くの信者は古い宗教的な考えや思いを捨てたくないのです。

しかしパウロの生活を見ると分かります。先に読んでいただきました個所です。  
ピリピ人への手紙 3章6節後半から7節

**律法による義についてならば非難されるところのない者です。しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。**

パウロは、自分の信心深い生活、自分の宗教的な考えや思いが、全部ダメだったということ告白しました。なぜなら、結局聖霊が支配者ではなかったからです。

私たちは熱心に集会に来て、熱心に聖書を読んでも、また一生懸命、主に仕えようとしても、これらのことを自分の力で、聖霊の支配無しにするなら、私たちは騙された者となるのです。

サウロ後のパウロは、自分の力を尽くして主に仕えようと、本当に心から努力しました。その結果は、パウロ自身に言わせると、彼自身も以前には、ナザレ人イエスの名に逆らって、反対の行動をすべきだと思っていました。彼は自分の思っていることを熱心に行っていました。これが間違っていたのです。パウロは主に仕えようと努力していましたが、主を迫害してしまったのです。自分の力を使うこと、自分の思い、自分の考え、自分の計画などは非常に危険です。このことは私たちが絶えず覚えるべきではないでしょうか。自分の思い、自分の欲すること、自分の志すことや、目的は、絶対ダメだということです。私たちは主にだけ仕えようと思うかもしれませんが、しかし、古いものは全部過ぎ去らせなければ、主の邪魔者にすぎないのです。

主のみこころにかなったまことの教会は、全く新しい器です。まことの教会の力は、少しも人間の力ではありません。教会の力の源は聖霊です。けれど、古いものが全部過ぎ去らなければ、この新しい事からはあり得ないのです。

どうでしょうか。

- ・自分の生まれながらの気持ちによって支配されている生活は終わったのでしょうか。
- ・実際生活において、聖霊の支配を知っているのでしょうか。

聖霊の支配は、私たちが、聖霊の標準や聖霊の方法と一致すること、一つになることを意味しているのです。もし私たちが聖霊の支配の下にいるなら、生まれつきの考え方や、判断などは使わないで、聖霊と一つになることによって、聖霊の判断、聖霊の考え、聖霊による基準をもっているはず。これがパウロのメッセージでした。

けれどそれだけではなく、このメッセージは、パウロの実際生活において現実だったのです。この世の困難を解決する主の器は、このような教会です。

3. この器はイエス様によって捕えられていることです。

パウロは、「私はキリスト・イエスによって捕えられている。私はイエスのしもべ。イエ

スに仕える奴隷です」と喜びをもって、感謝をもって告白したのです。ダマスコへの道の途中で経験した回心は、主によって捕えられていることでした。パウロは実に主によって閉じ込められ、監禁されてしまったのです。イエス様はパウロに、わたしはあなたを捕えた、と言われました。そしてパウロは捕えられた者として、主に仕える奴隷として、主のためだけに生きることが、まことの自由であり、最高の幸せであることを経験したのです。

前に話しましたように、パウロは、教会の代表者、教会の象徴でした。したがってパウロの生活によって明らかになった霊的真理は、おのおのの教会のうちに現実とならなければなりません。これこそ主のみこころです。

パウロの生活の特徴は、「イエス様によって捕えられている」ことでした。私がイエス様を選んだのではない。捕えられてしまったと。

同じように、まことの教会の特徴は、イエス様によって捕えられることです。したがって、まことの教会は、人間によって作られたものではなく、人間が組織したものでもありません。人間は自分の力でまことの教会に入ることはできません。確かに多くの人は、あの人もキリスト教に入ってしまった、と言います。もちろんキリスト教に入ろうと思えばできますが、救いを得るためには主によって捕えられなければならないのです。

現代のキリスト教というものは人間によって作られたもので、決して主が主権者として創造されたものではありません。「まことの教会」とは、主ご自身が造られたものです。人間ができることは、イエス様を紹介することであり、主イエス様のなさったことを宣べ伝えることにすぎません。

ほかの残っている仕事は、全部聖霊の仕事です。人間の力で教会へ導いた人々、また、形式的に教会員になった者は、まことの教会の妨げにすぎないのです。どうでしょうか。私たちはみなイエス様によって捕えられた者になったのでしょうか。

パウロは大喜びで、私はキリスト・イエスによって捕えられたと言うことができたのです。そして言ってきましたように、パウロの生活の霊的な特徴が、まことの教会の特徴とならなければならないわけなのです。

#### 4. この器は自由にされた器です。

私たちがガラテヤ書を読むと、この自由の大切さが分かります。パウロは何回も、「キリストにある私の自由」ということばを使いました。イエス様は、「わたしはあなたがたを自由にするために来た」と言われたのです。

ユダヤ教の指導者たちは何と言ったかと言いますと、自分たちこそ主なる神によって選ばれた民であり、自分たちだけが神の器であると。しかしすでに主なる神から排斥されたことを認めようとしませんでした。ユダヤ教の指導者たちは、自分たちこそまことの教会であり、大切なのは律法を守ること、そして儀式や形式や自分の組織こそが大切なのだと。

これに対してパウロは、憤激して反対しました。キリストにあって私は、儀式や形式や律法から解放されたと。そしてパウロは、啓示によってこの事実を自分のものとし、聖霊の力によって宣べ伝えたのです。



- ・イエス様は祭壇であり、イエス様は神と人間との会見の場である。
- ・イエス様はささげものであり、イエス様は全人類の罪を取り除かれた。
- ・イエス様は祭司であり、主イエス様は主なる神と人間との間の仲保者である。

イエス様ご自身が会見の幕屋です。だから特別な建物は必要ありません。集まりの中心とは主イエス様ご自身です。「まことの教会」とはイエス様ご自身であり、またイエス様に結び付いている兄弟姉妹の一致です。だから、外面的な組織されたものは必要ありません。その代わりに、生き生きとしたイエス様との霊的な交わりは、まことの教会の際立っている特徴です。

けれど、ユダヤ教の信者たちは反対しました。決してそうではないと。使徒行伝15章を読むと分かります。

使徒の働き 15章1節

さて、ある人々がユダヤから下って来て、兄弟たちに、「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない。」と教えていた。

パウロはこれを聞いて、命懸けで戦いました。主の救いとは全く違う。主が恵んでくださらなければだれも救われ得ない、とパウロは宣べ伝えたのです。

言うまでもなく、こんにち私たちに敵対するものは、ユダヤ教ではなく、「人間によって作られ、組織されたキリスト教」ではないでしょうか。いわゆるキリスト教そのものは、多くの場合、形式的なものであり、いのちのないものです。教会生活によって多くの人は束縛され、また支配されているのではないのでしょうか。

パウロは、このような偽物に対して戦ったのです。なぜなら、彼は宗教的な束縛から、イエス様によって全く自由にされたからです。パウロは、主イエス様のうちに全てがあり、そしてイエス様とつながっていれば、本当の意味で喜ぶことができ、また、ほかの人々も導かれて救われると経験しました。掟から解放されたパウロは、まことの自由へと。また、イエス様との交わりも、パウロにとっては、すべてのすべてでした。

こんにちも、本当の意味で解放された者だけが主に用いられるのです。

5. 最後に五番目ですけれど、この器は、本当は大したものではない土の器です。

前に司会の兄弟が読まれた、コリント第二の4章6節、7節をもう一度引用いたします。  
コリント人への手紙・第二 4章6節、7節

「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。

パウロは、私たちはこの宝を土の器の中に持っていると言ったのです。何というすばらしい宝物なのでしょう。キリストのみ顔に輝く神の栄光の知識です。

「まことの教会の使命」とはどういうものなのでしょうか。

まことの教会の使命や、働きの目的は、キリストのみ顔に輝く神の栄光の知識を明らかにすることです。これこそ、まことのキリスト者にとっての特権です。

私たちは、イエス様のみ顔に輝く主の栄光の知識を明らかにしているのでしょうか。これが、私たちに与えられている使命です。ほかのことをどんなに熱心にしても役に立ちません。主の栄光を表わすのは、「よみがえりのいのち」の現われです。パウロの生活そのものは、主のよみがえりの力の現われでした。

パウロは、「自分は土の器にすぎない。死に直面したこともしばしばあり、また生きる望みさえ失ってしまったこともある。しかしいつも主イエスの死をこの身に帯びている」と告白しました。このような告白を見ると、私たちはパウロの弱さを見ることができますが、もし私たちがパウロの働きの深さ、満ちし、また結果を見る時におどろくばかりです。

いったいどうして、主は彼をそれほどまでに用いることができたのでしょうか。パウロが特別に強かったからでしょうか。普通の人よりもずっと賢い者だったからでしょうか。決してそうではありません。パウロは正直に証しました。

コリント人への手紙・第二 4章7節

**私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。**

パウロは、「私は土の器にすぎない。もし忍耐があれば、もし力があれば、もし良い結果があれば…。これは決して私のせいではない。これは、測り知れない主ご自身の力です」と。これは、よみがえりの力の現われそのものです。

土の器に宿っているよみがえりの力は、パウロの生活の秘訣でした。パウロは、まことの教会の代表者ですから、パウロの生活の特徴は、教会の特徴とならなければならないのです。

私たちの場合はいったいどうでしょうか。私たちも単なる土の器でしょうか。

ある人は言うでしょう。「私なんて…。私は弱い…。あまり役に立たない…。主は私を用いることができないでしょう」と。

パウロも実に土の器でした。ところが、彼は、この土の器こそ、それが主の測り知れない力を宿す器であるべきだと確信したのです。主がこの土の器によってのみ、ご自分の測り知れない力を現わすことがおできになるのです。

こんにちの教会はいかがでしょう。こんにちの教会は、土の器になりたくないのです。むしろ、自分のことしか考えていないのではないのでしょうか。こんにちの教会は、この世と同じようにさせようと努力をしています。初代教会は土の器でした。それは、初代教会とこんにちの教会の働きの結果を比べれば分かります。

この世の困難を解決するために、主から備えられた器が必要です。パウロはそのような器でした。そして、パウロの生活の霊的な特徴が、教会の特徴とならなければならないのです。さらに私たち一人一人の生活のうちにも、この霊的な特徴が現実とならなければならないということです。私たちもこのような器になれば幸いです。これこそ主の目指される目的です。

主がご自分の教会に対して示された啓示は、土の器の生活のうちで、生きる現実とならなければなりません。言うまでもなく、御霊の啓示によってこれが可能となります。これは生まれながらの肉の生活の歴史の終わりです。また新たな霊的な出発点を意味します。繰り返して言いますが、これは御霊のみの、みわざであり、人間の努力の結果ではありません。このような器は、主イエス様によって本当の自由をもっていますし、イエス様のうちに何でももっています。イエス様こそ、このようなあらゆる困難を満たすお方です。

旧約時代の象徴したもの、すなわち、いわゆる儀式、また預言者たち、祭司たち、祭壇、恵みの座、ささげもの、宮などは、イエス様にあって初めて全部成就されました。

イエス様こそ私たちの預言者であり、祭司であり、王であり、また、私たちの恵みの座であります。そして、イエス様によって、主なる神の栄光の知識が明らかになりました。

またイエス様は、私たちをも土の器として用いようと望んでおられます。主の測り知れない力、また、主のよみがえりの力は、土の器を通して初めて明らかになります。

今の世の困難を解決する器は、「イエス様のからだなる教会」です。私たちはこの主の器を心の目で見たことがあるのでしょうか。私たちは主の器となるべきです。

確かに、イエス様は、「わたしは…わたしの教会を建てます。(マタイ伝16:18)」と約束してくださいました。イエス様はそのための力をおもちになるお方です。言うまでもなく、これは新しい教派、新しい組織、新しい諸教派でもありません。

イエス様と、救われた者との生き生きとした交わりこそが、用いられる教会であり、主の必要な器なのです。

了